



視覚文化の 不易流行

(全8回)

視覚文化連続講座シリーズ5(2024年)

Kyoto Foundation for Visual Culture

「不易流行」は、晩年の芭蕉が提起した俳諧の理念です。「不易」は変わらないもの、「流行」は変わるものことですが、その関係について、解釈が一定しているわけではありません。そこで、本シリーズでは、陶芸や絵画、能楽、舞踊、香道などの領域で、変わらないものと変わるものについて、また、両者の関係について、具体的に分かりやすく語っていただくことにしました。

開講時間 / 14:00~15:30

※質疑応答で30分程延長する場合があります。

会場 / 同志社大学今出川校地寧静館N21教室
京都市上京区今出川通烏丸東入

定員 / 100名 (随時受付)

受講料 / 全8回 8,000円 (税込)

[須田記念 視覚の現場] 2冊(春季号・秋季号)進呈

※通年受講者とは別に、1回毎の聴講者を受け付けます。

1講座(税込1,200円)のみをご希望の方は、事務局まで

お問合せください。

応募方法 / 下記の用紙に必要事項をご記入のうえ、事務局にFAXを
するか郵送をしてください。財団ホームページで、「受講申
込フォーム」にご記入のうえ、事務局に送信することも
できます。また、「受講申込フォーム」(PDF版/Word版)を
ダウンロードし、記入したものをメール添付/FAX/郵送
することもできます。

- 9月21日(土)
匂いを見る、香りを聞く~香道から
濱崎加奈子 (京都府立大学准教授、〔公財〕有斐斎弘道館館長)
- 10月19日(土)
陶芸に親しむ
—パラミタ陶芸大賞展のこれまでとこれから
衣斐唯子 (〔公財〕岡田文化財団パラミタミュージアム学芸員)
- 11月16日(土)
身体の共鳴とコンテンポラリーダンス
矢内原美邦 (近畿大学文芸学部教授)
- 12月21日(土)
流行りつつある大阪画壇
—残された美術史の沃野
明尾圭造 (大阪商業大学公共学部教授、附属博物館首席学芸員)
- 2025年1月18日(土)
近世工芸とビジュアル・アーカイブ
—乾山焼を中心に
リチャード・ウィルソン (国際基督教大学名誉教授)
- 2025年2月15日(土)
高島華宵のイマジュリイ世界
高島麻子 (高島華宵大正ロマン館館長)
- 2025年3月15日(土)
能と能面
金剛龍謹 (金剛流能楽師、〔公財〕金剛能楽堂財団理事)
- 2025年4月19日(土)
上方舞山村流 —座敷舞、地唄舞の魅力
山村侃 (上方舞山村流舞踊家)

主催 公益財団法人きょうと視覚文化振興財団

お問合せ

公益財団法人 きょうと視覚文化振興財団

〒607-8154 京都市山科区東野門口町13-1-329

TEL 075-748-8232 FAX 075-320-2582

mail info@kyoto-shikakubunka.com

HP https://kyoto-shikakubunka.com

FAXは切らずに送信してください

2024年3月25日作成

「視覚文化の不易流行」受講申込

月 日 申込

氏名	連絡先	TEL 携帯 FAX	支払い方法 選択	<input type="checkbox"/> 郵便振替 <input type="checkbox"/> 現金書留 <input type="checkbox"/> 銀行振込
住所	きょうと視覚文化振興財団事務局 行 FAX番号 075-320-2582			

※ご記入いただいた個人情報は、本件以外の目的で使用することはありません。

1

匂いを見る、香りを聞く～香道から

内容

- 和歌にみる匂い・香り
- 源氏物語と匂い・香り
- 香木と銘
- 伝統文化プロデュースの現場から



講師

はまざきかなこ
濱崎加奈子

京都大学文学部（美学美術史学）卒業、東京大学大学院修了、学術博士。伝統文化プロデューサー。公益財団法人有斐斎弘道館館長、京都府立大学准教授。著書に『京都かがみ』『香道の美学』、共著に『京菓子と琳派』、監修に『京都二条城と寛永文化』他。

2

陶芸に親しむ

—パラミタ陶芸大賞展のこれまでとこれから

内容

- 陶芸展のあゆみ
- 伝統とオブジェ
- 陶芸の多様性



講師

いびゆいこ
衣斐唯子

1979年三重県生まれ。公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアムの学芸員として2009年より勤務。三重県の伝統工芸品である萬古焼の調査・研究を行う。これまで、パラミタ陶芸大賞展、河井寛次郎展、浮世絵展などを担当。

3

身体の共鳴とコンテンポラリーダンス

内容

- 身体表現の多様化と歴史
- ニブロールがしてきたこと
- 身体と共鳴、共存するとは一折り紙を使って



講師

やないはらみに
矢内原美邦

近畿大学文芸学部教授。舞踏学を専攻。在学中に、アメリカンエデュケーション振替特別芸術賞を獲得。1997年ダンス・カンパニーニブロールを結成。劇作・演出も手がけ第56回岸田國土戯曲賞受賞。ダンスと演劇、美術などの領域を行き交いながら作品制作を行う。

4

流行りつつある大阪画壇——残された美術史の沃野

内容

- そもそも売れていた大阪画壇（売立目録から）
- 江戸期における自娛の感覚（文人画の世界）
- 大阪特有の絵画受容について
- 欧米からの逆輸入（上方絵・摺物）
- 新たな大阪画壇の企画展開について



講師

あけおけいぞう
明尾圭造

1961年布施市生まれ。日本近世近代文化史専攻、大阪画壇を研究。芦屋市立美術博物館学芸課長を経て大阪商業大学公共学部教授及び附属博物館首席学芸員。文化交渉学博士。共著書『モダニズム出版社の光芒』（淡交社）ほか多数。『伊勢物語と芦屋』展などを企画。

5

近世工芸とビジュアル・アーカイブ

——乾山焼を中心に

内容

- 尾形乾山の芸術
- 琳派風の図案と光琳
- 乾山の絵画・織物・漆器・絵本
- 乾山の独自性と近世の視覚性



講師

Richard Wilson
リチャード・ウィルソン

ニューヨークに生まれる。美術史学博士。京都市立芸術大学留学。作陶家。国際基督教大学美術史・考古学名誉教授。考古学研究センター及び日本研究ディレクター。比較文化研究科長。小山富士夫記念賞受賞を受賞（2021年）。著書『尾形乾山 研究集成』（2023年）ほか多数。

6

高島華宵のイマジユリイ世界

内容

- 高島華宵の生涯
- 作品世界とその特徴
- 大正文化の中での華宵
- 華宵の水脈を探る（アングラからサブカルへ）



講師

たかばたけあさこ
高島麻子

1967年愛媛県生まれ。成城大学文芸学部芸術学科卒業。高島華宵大正ロマン館館長。1990年の開館時より学芸員として同館に勤務。「大正イマジユリイ学会」常任委員・事務局。著書に『華宵からの手紙』『高島華宵—大正のロマンとデカダンス』（監修）などがある。

7

能と能面

内容

- 能の歴史の中での変化と不変
- 能役者の舞台上での精神
- 能面に見る能の心



講師

こんごうたつり
金剛龍謹

1988年生まれ。金剛流二十六世宗家金剛永謹の長男。幼少より、父・永謹、祖父・二世蔵に師事。演能会「龍門之会」主宰。同志社大学文学部卒業。京都市立芸術大学非常勤講師。京都市芸術新人賞、京都府文化賞奨励賞受賞。

8

上方舞山村流——座敷舞、地唄舞の魅力

内容

- 上方舞山村流の歴史と現在
- 山村流の地唄舞
- 山村流の歌舞伎舞踊



講師

やまむら かん
山村 侃

1992年、山村流宗家の次男で大阪に生まれ、父の六世宗家山村若襲名披露舞踊会にて初舞台。山村流宗家一門の会『舞扇会』に出演、また後見等を務め修行。2022年、宝塚歌劇『心中・恋の大和路』にて振付デビュー。大阪文化祭賞奨励賞・文化庁芸術祭賞優秀賞受賞。



公益財団法人

きょうと視覚文化振興財団

本財団は、京都の洋画家・須田国太郎（1891-1961）の遺族・須田寛氏から、その遺産を須田が目指した日本の美術振興にあててほしいとの申し出があり、2019年11月に、美術研究者を中心に発足しました。その後、2022年8月には公益財団法人に移行し、機関誌の発行、調査研究、連続講座やワークショップの開催、展覧会支援、展覧会企画などの活動を行っています。これらの活動に共鳴し、サポーターとして支援して頂ける会員（友の会会員／フォーラム会員／特別会員）を募集しています。

会員募集

詳細は財団ホームページをご覧ください



<https://kyoto-shikakubunka.com>